

品川区の人権同和研修会の様子から



先日27日（火）の午後、体育館で5年生の市民科の授業がありました。テーマは「人権問題について考えよう」というもので、授業講師には、品川区の同和生活相談員を担っていらっしゃる方においでいただき、子どもたちにお話をさせていただいたり、質問に答えていただいたりという45分間でした（写真左）。この授業は、品川区の人権同和教育研修会（区内各校教職員対象）の一環で行われたもので、授業の様子は、多くの区内の教職員にも公開されました。

授業は、講師の、食肉市場での仕事に対する思いや、一方で今でも散見される偏見・差別に対する思いを伺った後、児童からの質問に答えていただくという展開で進みました。

5年生は、2週間ほど前に、食肉市場内にある「お肉の情報館」の見学を行い、食肉加工は衛生管理がしっかり行われた中で、働く方々の高い技術のもとで行われていることを学びましたが、同時に、今もある差別事象の現実にも気付きました。学校に戻ってからは、差別や偏見とは何か、どうして食肉市場に対して差別事象が起こるのかなどを調べ、本時は、これまで学んできた中から講師にいろいろと疑問に思ったことを伺おうという意図で設定されました。

子どもたちからは、たくさんの質問が出されました。「どうして市場で働こうと思われたのですか」「差別が原因で、仕事を辞めた方はいないですか」「今もある差別事象の実態を教えてください」「この仕事のやりがいは何ですか」などなど。講師は、一つ一つ丁寧に答えくださいました。答えを聞いて、子どもたちは、さらに伺いたいことが出てきたようでした。

授業の後半で、数名のグループに分かれ、偏見や差別を解消していくために、自分たちができることは何だろうというテーマで、意見を出し合い、みんなの前で発表しました。「偏見をもたないためには、正しい情報を得ることが大事」「あやふやな情報を発信しないこと」「間違った情報に惑わされないようにすること」など、この授業の中で感じたことが、数多く出されました。授業後の協議会（教員の研修の場（写真右））では、子どもたちの授業に向かう真摯な姿や、難しい問題にもしっかり正対して取り組もうと姿勢に、さすが台場小の子どもたちだという声もいただくことができました。

今なおある差別や偏見に気づき、その解消に向けて行動できる人が増えてほしい、私自身、自分のそのうちの一人でありたいと常に思っています。子どもたちが、真剣に講師の話聞き、自分の考えを発信する姿を見て、難しい問題だからと言って目を背けるのではなく、大人も含めて、みんなで差別や偏見の解消に向かう世の中にしていきたいと、強く思いました。